

2008 年 7 月 16 日

鎌倉市長 石渡徳一 様
鎌倉市教育長 熊代徳彦 様

図書館とともだち・鎌倉
代表 黒瀬聖子

要望書

日頃より鎌倉市の教育行政にご尽力いただきありがとうございます。また、私たちの活動へのご理解、ご協力に感謝申し上げます。

私たちは今年度より図書館との協働事業が始まり、日々図書館との連携を深めるにつれ、図書館の大切さを改めて感じているところです。先ごろ改正された図書館法、それに伴ってなされた衆参両議院での附帯決議を見ましても、現代社会において、図書館と司書の役割がますます重要になっていることがわかります。

そこで、鎌倉市の図書館職員について以下の通り要望させていただきます。

要望事項

1. 司書資格を有する職員を図書館に新規採用してください。
2. 多様化する市民サービスを行ううえで十分な人数の職員を確保してください。
3. 職員の年齢構成の是正をしてください。

図書館は、図書館法第 2 条で定められている通り「図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設」ですが、現在ではそれに加え、社会教育施設としてさらに積極的な活動が期待されています。

鎌倉市図書館は市民団体との協働事業を始めたほか、今年度より実施する鎌倉市の子ども読書活動推進事業の担い手ともなっています。子ども読書活動推進事業では、図書館内での児童サービスばかりでなく、学校図書館支援も大きな柱の一つとなっています。そこでも専門的知識と経験を持つ司書職員が求められます。

また、鎌倉市図書館は 2011 年には開館 100 周年を迎えます。日本全国でも有数の歴史を持つこの図書館を、文化都市鎌倉の図書館としてさらに発展させるためにも、職員の充実は不可欠です。

2006年3月に、私たちは「図書館正規職員の年齢別構成の是正」についての要望書を提出し、「職員年齢構成の偏りを是正すべく努力するとともに、職員の専門的能力の向上により一層充実したサービスが提供できるよう努めてまいります」というご回答をいただきました。しかし、現在に至るまで正規職員の新採用はありません。

今現在の図書館の資料の収集保存やその提供をはじめとするさまざまな市民へのサービス・役割を充実・発展させるだけでなく、さらにこの先の100年、そしてその先へと継続するためには、それを受け継ぐ職員の養成が必要です。専門職である図書館職員にとって、司書資格は基礎として必要ですが、そこに研鑽と経験が加わって始めて、有能な司書となるのです。

現在、鎌倉市職員定数の適正化がすすめられていることは承知していますが、適正化とは、必ずしも減員を意味するものではなく、必要とするところへの職員の配置は行われるべきだと思います。そして、よりいっそうの質の高いサービスを維持・発展させるために、司書有資格者の配置が必要だと考えています。

以上の理由により、上記要望したいと存じます。どうぞ迅速なご配慮をよろしくお願い申し上げます。

尚、ご回答は文書にてお願いいたします。